

## I. はじめに

本学は平成 10 年度に共通教育を含む全学の教育課程を全面的に刷新した。このレビューは、共通教育で設定されてきている教育目標がどの程度達成されているかを点検・評価することを目的とし、新しい教育課程で学んだ最初の学生が卒業年次となる時期に行ったものである。

平成 3 年の大学設置基準の改正以降、本学は発足以来実施してきた人文・理の 2 学部による一般教育を見直し、教育・農を含めた 4 学部による全学共通の教養教育を平成 6 年度から実施した（第一次改革）。教育課程の編成においては、教養教育と専門教育とを有機的に連繋して展開させ、教養教育の授業科目を全学共通開講として名称を共通教育とした。しかし、多様化する学生の要求と社会が求める人材育成に 대응していくためには、教育体系のさらなる改善と充実が必要であった。

平成 10 年度、本学は人文・教育・理の 3 学部の改組と連動させ、全学の教育課程を再構築して 5 つの教育科目群からなる 4 年一貫学士課程教育として統一した（第二次改革）。学部教育との並立であった共通教育を改め、全学統一の教育課程のうち、基軸、教養、基礎の 3 つの教育科目群から構成した教養教育の中核を担う新たな共通教育とした。同時に、一般教育等学科目組織を廃止し、その定員を各学部へ配置した。配置した定員数に基づいて各学部の共通教育の授業担当数を定める体制をとった。これにより、多彩な授業題目が加わって共通教育の内容の幅が広がった。また、従来、学部専門教育だけを担当していた教員が全学の学生のための共通教育を受け持ち、より多くの教員が大学の教養教育に対する関心と責任感を意識するきっかけともなった。

共通教育自己点検評価委員会は、第一次および第二次改革を経てきた本学共通教育の中間的総括として自己点検評価を行った（平成 12 年 11 月報告書刊行）。さらに、これに基づいて 3 名の委員による外部評価を実施した（平成 13 年 2 月報告書刊行）。外部評価では、本学の共通教育を高く評価する点とともに、いくつかの改善すべき課題が出された。その一つが、「新教育課程で設定された教育科目のねらいが必ずしも十分に達成されていない。完成年度にあたる 4 回生からアンケート調査を行い、共通教育の徹底したレビューを実施しなければならない」であった。

13 年度共通教育自己点検委員会は、外部評価で指摘された当該レビューを実施し、その結果を分析して現行の共通教育のありかたを改善する提言をまとめることを決定した。なお、レビューの結果は、大学評価・学位授与機構による全学テーマ別評価「教養教育」の 2 年目にあたる自己点検評価書の作成に活用することとした。

昨今の大学審議会答申「21 世紀の大学像と今後の改革方策について」（平成 10 年 10 月）、「グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について」（平成 12 年 11 月）、および中央教育審議会答申「新しい時代における教養教育の在り方について」（平成 14 年 2 月）で示されている大学の教養教育の内容は、本学の共通教育の目的と重なり合い、その多く

は、実態は別として、本学の教育課程で既に実現できるものが含まれている。知識社会の到来や情報化、国際化などの複雑で急激な社会的変動のなかで、大学の教養教育で求められているものは、幅広い知識とものの考え方を身に付けるだけではなく、日本語および外国語の駆使能力や情報処理能力といった基本的な技法の習得から、課題探求能力、異分野・異文化理解、倫理観、感性などの涵養まで、まさに全人教育的な内容を含む。本学の共通教育はこのような文字通り広範囲の教養教育を実現する責任を負っている。すなわち、全学部のすべての教員が共通教育を担当する本学にあっては、各教員は教養教育に対し、その重要性の正しい認識と強い責任感、さらには高い教育力量が求められる。

本報告書に掲載された現在の本学共通教育の実態を把握し、これからの共通教育のために教育者としての自覚をさらに喚起して自らの授業内容と教育方法の改善に努めていくことができるのは、本学の教員であればこそと信じる。また、本報告書の提言に基づき、共通教育におけるカリキュラム編成の改善などの具体的な検討は、高知医科大学との統合も視野に入れ、平成14年度共通教育自己点検評価委員会と大学統合推進本部会議第3部会で連携を取りながら早急に進めていく予定である。

本レビューの準備、実施、報告書の作成を含むほとんどの作業は、共通教育自己点検委員会内に特設したレビュー委員会が行った。膨大な資料の整理と分析などに精力を注いでもらったレビュー委員会委員長はじめ委員の先生方、ならびに教務課共通教育系の職員の方々に感謝申し上げます。

平成14年3月

共通教育主管  
奥田一雄